

2018/5/15

柏の景気情報（平成30年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年4月分）

○ 調査期間 : 平成30年4月26日 ~ 平成30年5月11日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	19	43.2%
製造	33	13	39.4%
卸・小売	43	23	53.5%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年4月の調査結果のポイント】

◀業況DIは再び悪化。先行きも懸念材料が多く悪化の見通し▶

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲11.4)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△7.6(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.2(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同±0.0)、卸小売業▲34.7(同▲26.0)である。

【建設業】からは、「豊縁(へり)小物・バックの販売が好調。あけぼの山売店への納品額が増加。さくら・チューリップ・菜の花などのこの時期は、観光客も多く販売額が増加する(内装工事業)」、「この景気情報は、答える対象者によってかなりの誤差が生じる。例えば工務店の場合、元受けて経営している会社と下請けで経営している会社では全く状況が違っており、元受けでは人手不足は深刻で下請けは好状況。業況でも元受けは悪化でも下請けでは方向性で好転もあり。売上高にしても元受けは上下するが下請けは不変もあり」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「単純に売上不足。例年よりGW企画が少なかった(印刷業)」、「お客様からの保全部品の見積もり依頼が多く、設備投資に対しては積極性が伺われる」(機械・同部品製造業)、「売上が消費税の圧で伸び悩んでいる」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「春物セールスは不調。客単価も上がらず客数減が当分続きそう。やはり郊外店舗では顧客の高齢化による客数減がかなり効いている」(婦人・子供服小売業)、「浅野書店は2018年5月20日(日)が最終営業日」(書籍・文房具小売業)、「店舗老朽化に伴う設備入れ替え費用増大」(各種商品小売業)、「入学関係の売上が前年より伸びた」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「今後、消費税を内税から外税に変更する」(酒場・ビヤホール)、「都心においてはインバウンド関連業種が企業の収益を高め、国策波乗り企業の躍進が目立つ。一方、中国企業の無人決済(スマホ等)の人件費用圧縮企業の売上増。収益を伸ばす改革商品(無人化自動車のピッチの速さ)など政府と大手企業はAI・IOTなどに全精力を傾け、労働力の進化・生産性の向上に邁進している。オリンピックに向けた需要のホテル・民泊等、柏市も疾風の手を打つことが考えられる。中小企業は激変の社会組織改革にあった社針を社員一丸で対応しないとオリンピック後から厳しさが。仕事量からの収益比率の低い4月景気だったかも」(投資顧問)、「不動産相続・空家査定及び売却依頼は多くなっている。買いたいとの問い合わせは減少。また、購入者も買いに対して慎重になっており、契約まで検討時期が長くなっている。相場より割安感のある物件は早期売却になっている」(不動産管理業)、「個人消費は悪くないと思う。ただ、買いたいモノ・浪費したいコトがそこに無いだけ。先ばかり見ないで、今が頭を使う時」(不動産賃貸業)、「不変状況が続いている。設備投資も厳しいと言うより怖い思い」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「採用を進めるが応募者が著しく少ない」(各種商品小売業)、「人手不足は大学生アルバイト給与を上昇させてもダメ。労働者派遣会社より補充している」(酒場・ビヤホール)、「運輸業界は深刻なドライバー不足・人件費上昇・燃料費上昇・車両購入・修繕費上昇で厳しい時が継続する。また労働者の適正な時間管理も必要であり難しくなっている」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「原材料単価は、ほぼ上げ止まりとなっているが、副資材単価や運送代の値上がりが続いている。また、材料納入の運送業者の手配も早目、納入時刻指定もできず材料搬入に支障が出ている。その結果、施工に関わる諸経費等が値上げとなり利益に影響が出て来ている」(職別工事業)、「FA部品の品薄状態は改善されず材料価格高騰も続いており、調達に厳しい状態が続いている」(機械・同部品製造業)、「前期からすると売上高は少々上昇したが、仕入単価も上昇したため利益幅は減少」(印刷業)、「材料・食材の値上がり」(酒場・ビヤホール)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲23.6	▲19.0	▲6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
3月	▲11.4	▲11.1	±0.0	▲26.0	±0.0
4月	▲12.8	△5.2	△7.6	▲34.7	▲20.0
見通し	▲20.0	▲5.2	▲23.0	▲34.7	▲13.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲11.4)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大した。

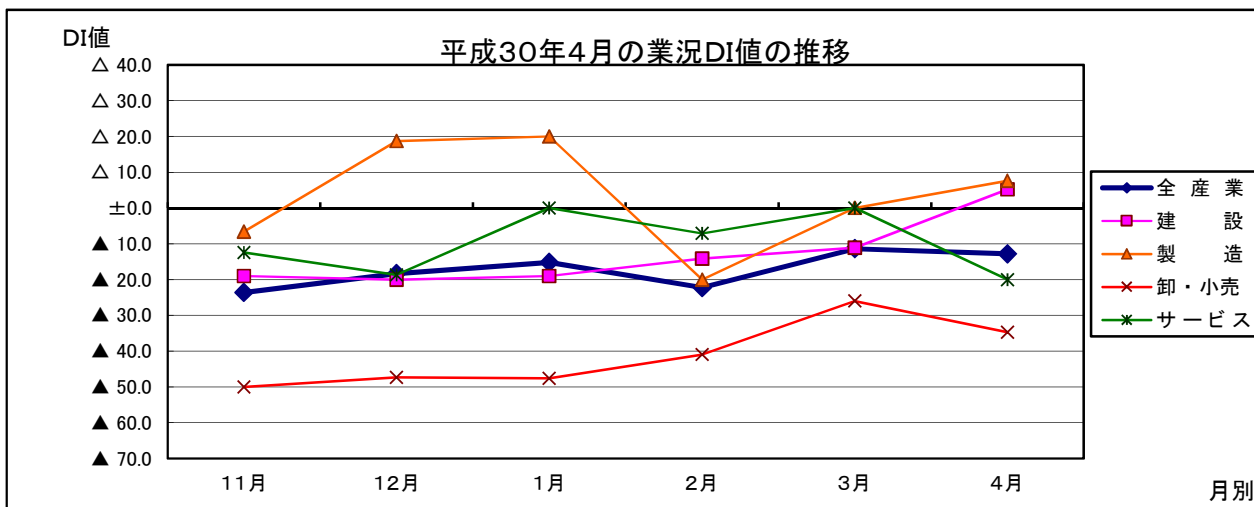
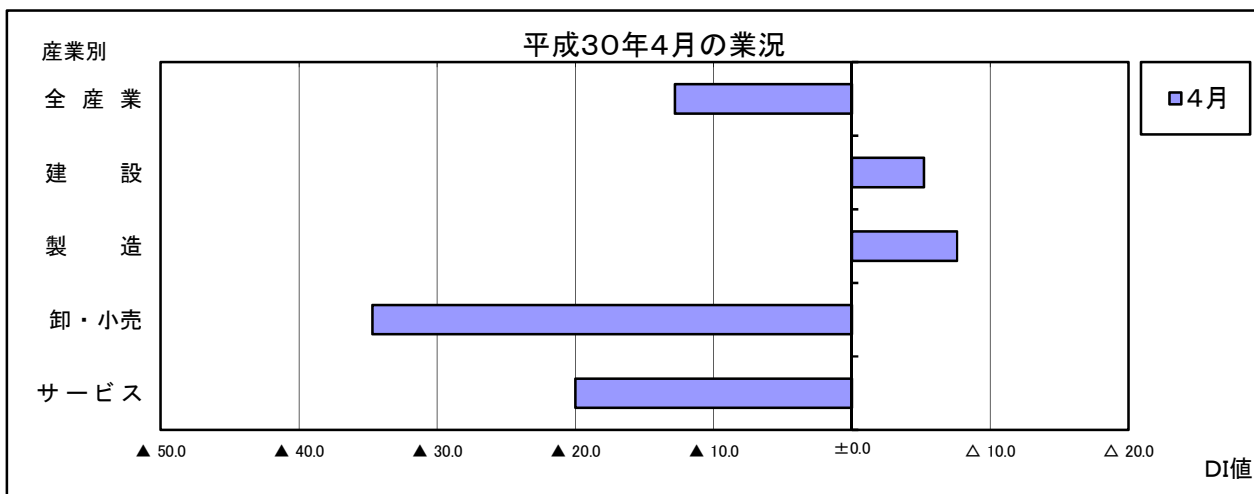
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△7.6(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.2(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同±0.0)、卸小売業▲34.7(同▲26.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅が14.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲5.2(同▲5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.0(同±0.0)、卸小売業▲34.7(同▲13.0)、サービス業▲13.3(同±0.0)である。

平成30年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年		平成30年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	▲23.6	▲18.3	▲15.2	▲22.2	▲11.4	▲12.8	▲20.0(▲5.7)
建設	▲19.0	▲20.0	▲19.0	▲14.2	▲11.1	△5.2	▲5.2(▲5.5)
製造	▲6.6	△18.7	△20.0	▲20.0	±0.0	△7.6	▲23.0(±0.0)
卸・小売	▲50.0	▲47.3	▲47.6	▲40.9	▲26.0	▲34.7	▲34.7(▲13.0)
サービス	▲12.5	▲18.7	±0.0	▲7.1	±0.0	▲20.0	▲13.3(±0.0)



【平成30年4月の売上についての状況】

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準△1.4)となり、マイナス幅が11.4ポイント拡大した。

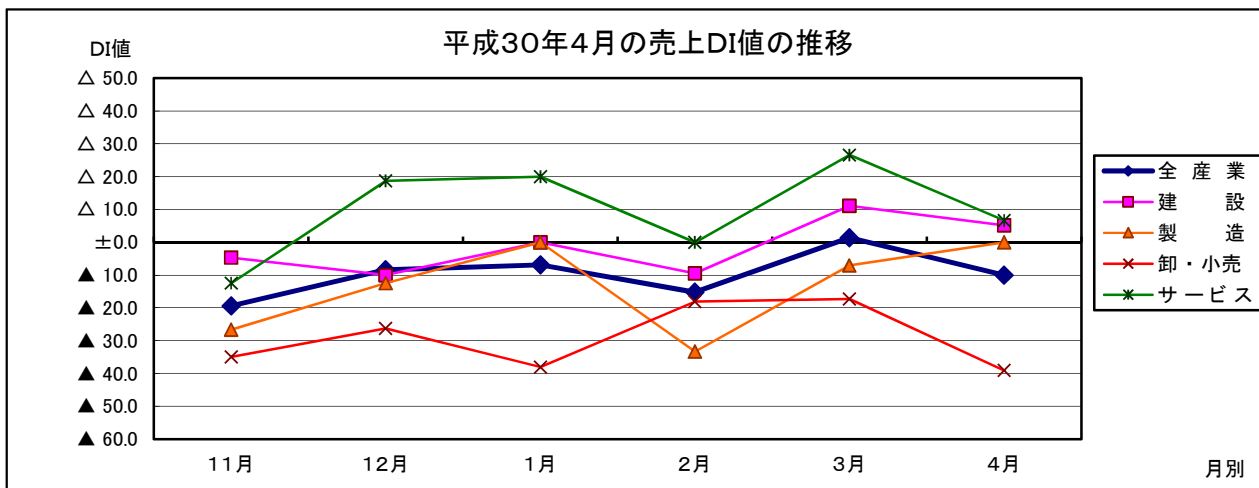
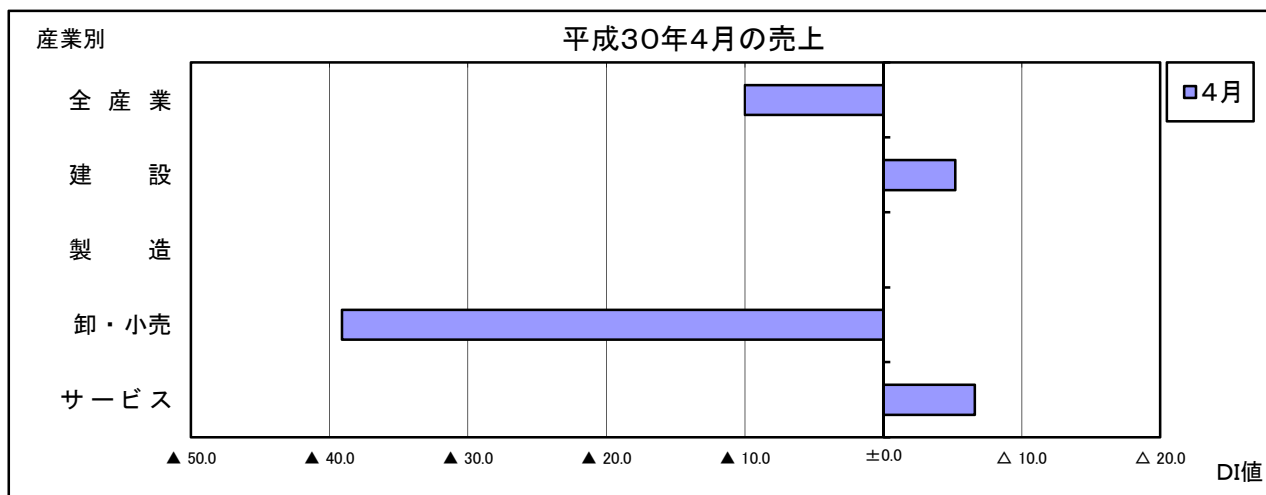
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同▲7.1)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.6(同△20.0)、建設業△5.2(同△11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲39.1(同▲17.3)である。

○向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.1(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅は11.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、サービス業▲6.6(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.1(同▲13.3)、製造業▲7.6(同±0.0)、建設業▲5.2(同±0.0)である。

平成30年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲19.4	▲8.4	▲6.9	▲15.2	△1.4	▲10.0	▲17.1(▲5.7)
建設	▲4.7	▲10.0	±0.0	▲9.5	△11.1	△5.2	▲5.2(±0.0)
製造	▲26.6	▲12.5	±0.0	▲33.3	▲7.1	±0.0	▲7.6(±0.0)
卸・小売	▲35.0	▲26.3	▲38.0	▲18.1	▲17.3	▲39.1	▲39.1(▲13.0)
サービス	▲12.5	△18.7	△20.0	±0.0	△26.6	△6.6	▲6.6(▲6.6)



【平成30年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24. 2(前月水準▲10. 0)となり、マイナス幅は14. 2ポイント拡大した。

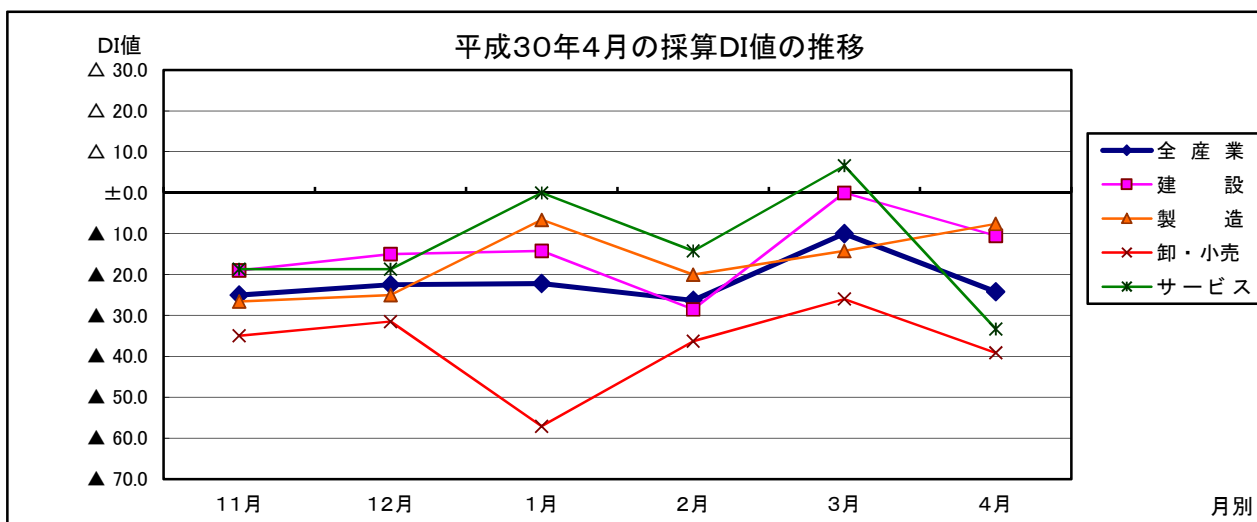
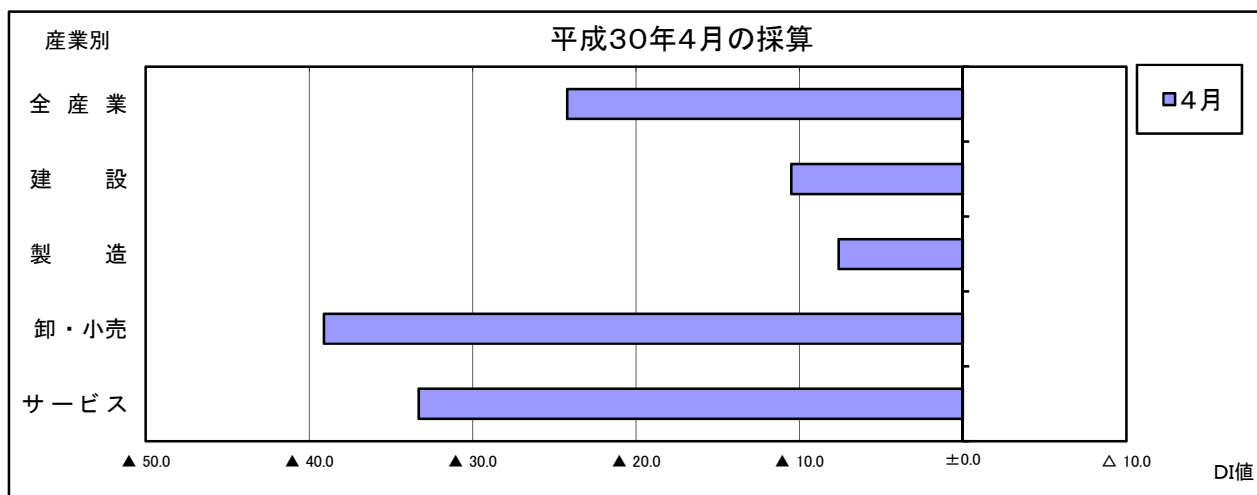
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲7. 6(同▲14. 2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲33. 3(同△6. 6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39. 1(同▲26. 0)、建設業▲10. 5(同±0. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28. 5(前月水準▲12. 8)であり、マイナス幅が15. 7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲10. 5(同▲11. 1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33. 3(同▲6. 6)、卸小売業▲47. 8(同▲21. 7)、製造業▲15. 3(同▲7. 1)である。

平成30年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲25.0	▲22.5	▲22.2	▲26.3	▲10.0	▲24.2	▲28.5(▲12.8)
建設	▲19.0	▲15.0	▲14.2	▲28.5	±0.0	▲10.5	▲10.5(▲11.1)
製造	▲26.6	▲25.0	▲6.6	▲20.0	▲14.2	▲7.6	▲15.3(▲7.1)
卸・小売	▲35.0	▲31.5	▲57.1	▲36.3	▲26.0	▲39.1	▲47.8(▲21.7)
サービス	▲18.7	▲18.7	±0.0	▲14.2	△6.6	▲33.3	▲33.3(▲6.6)



【平成30年4月の仕入単価についての状況】

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35.7(前月水準▲32.8)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。

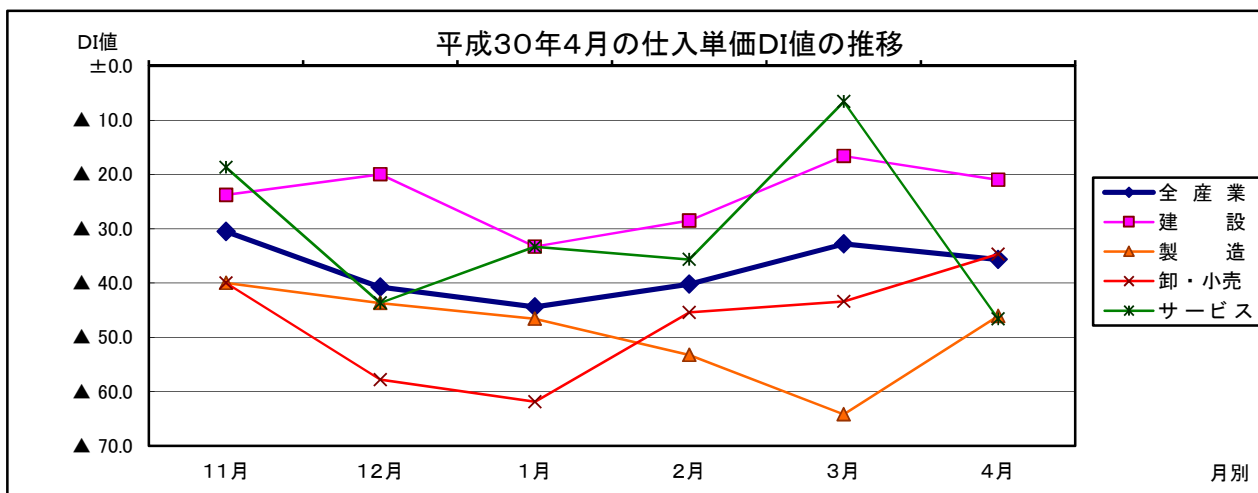
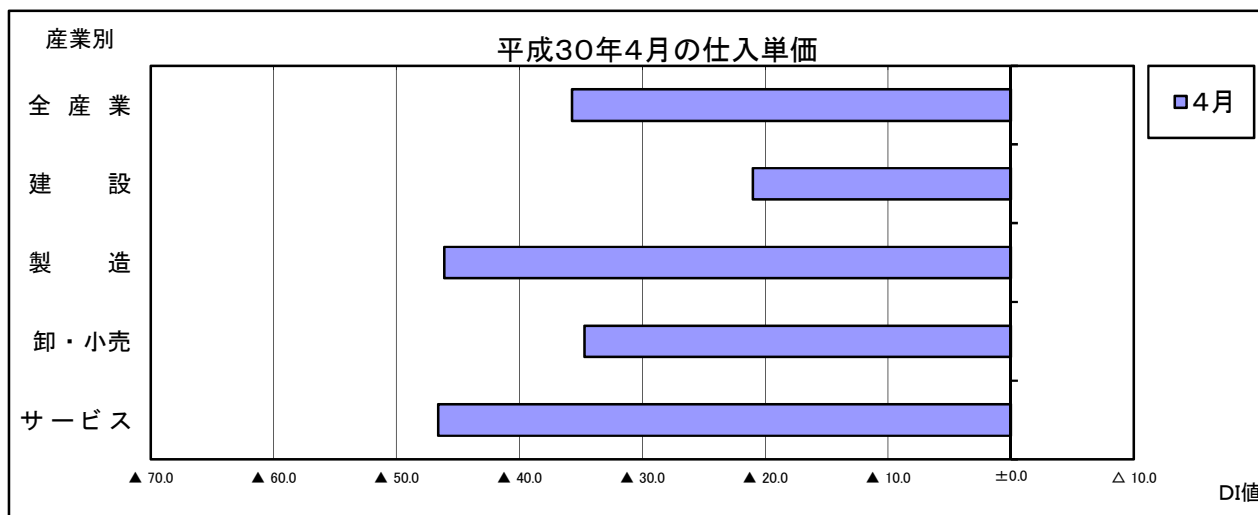
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲46.1(同▲64.2)、卸小売業▲34.7(同▲43.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲6.6)、建設業▲21.0(同▲16.6)である。

○向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.5(前月水準▲25.7)となり、マイナス幅が2.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲7.6(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲13.3)、卸小売業▲39.1(同▲26.0)、建設業▲21.0(同▲16.6)である。

平成30年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲30.5	▲40.8	▲44.4	▲40.2	▲32.8	▲35.7	▲28.5(▲25.7)
建設	▲23.8	▲20.0	▲33.3	▲28.5	▲16.6	▲21.0	▲21.0(▲16.6)
製造	▲40.0	▲43.7	▲46.6	▲53.3	▲64.2	▲46.1	▲7.6(▲50.0)
卸・小売	▲40.0	▲57.8	▲61.9	▲45.4	▲43.4	▲34.7	▲39.1(▲26.0)
サービス	▲18.7	▲43.7	▲33.3	▲35.7	▲6.6	▲46.6	▲40.0(▲13.3)



【平成30年4月の従業員についての状況】

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.7(前月水準△14.2)となり、プラス幅が1.5ポイント拡大した。

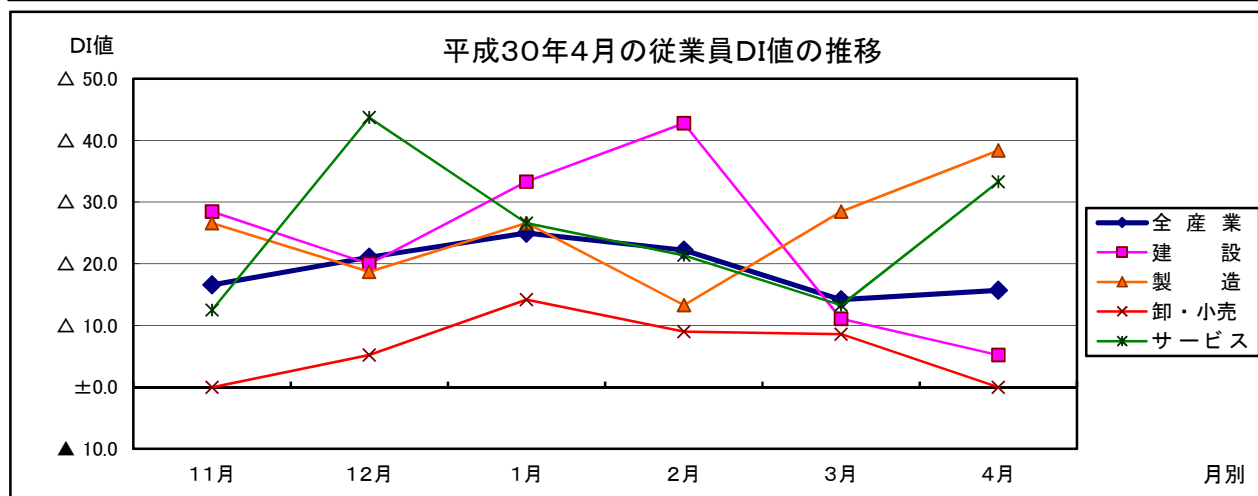
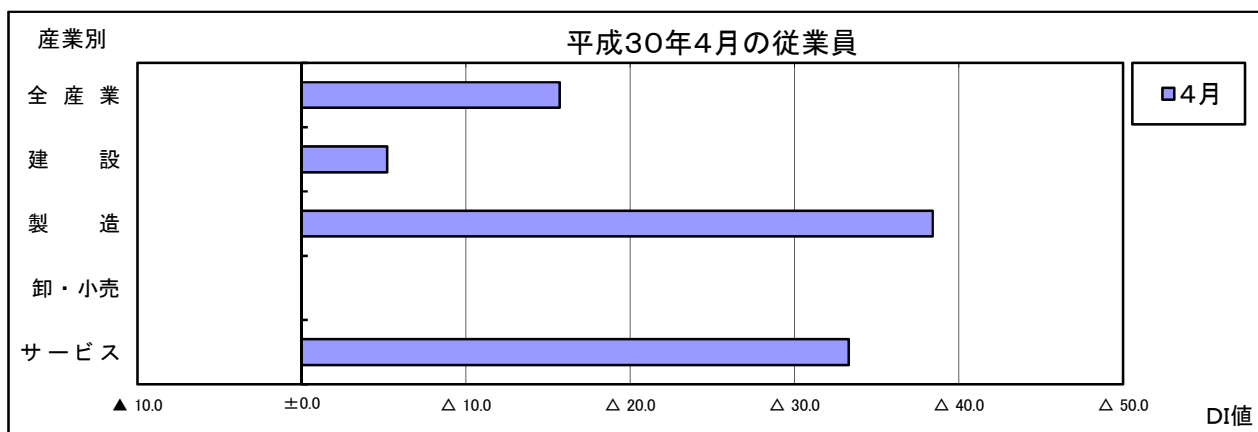
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△33.3(同△13.3)、製造業△38.4(同△28.5)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業±0.0(同△8.6)、建設業△5.2(同△11.1)である。

○向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△11.4(前月水準△14.2)であり、プラス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△33.3(同△13.3)、製造業△30.7(同△28.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△11.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲4.3(同△8.6)である。

平成30年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	△16.6	△21.1	△25.0	△22.2	△14.2	△15.7	△11.4(△14.2)
建設	△28.5	△20.0	△33.3	△42.8	△11.1	△5.2	±0.0(△11.1)
製造	△26.6	△18.7	△26.6	△13.3	△28.5	△38.4	△30.7(△28.5)
卸・小売	±0.0	△5.2	△14.2	△9.0	△8.6	±0.0	▲4.3(△8.6)
サービス	△12.5	△43.7	△26.6	△21.4	△13.3	△33.3	△33.3(△13.3)



【平成30年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.7(前月水準▲2.8)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。

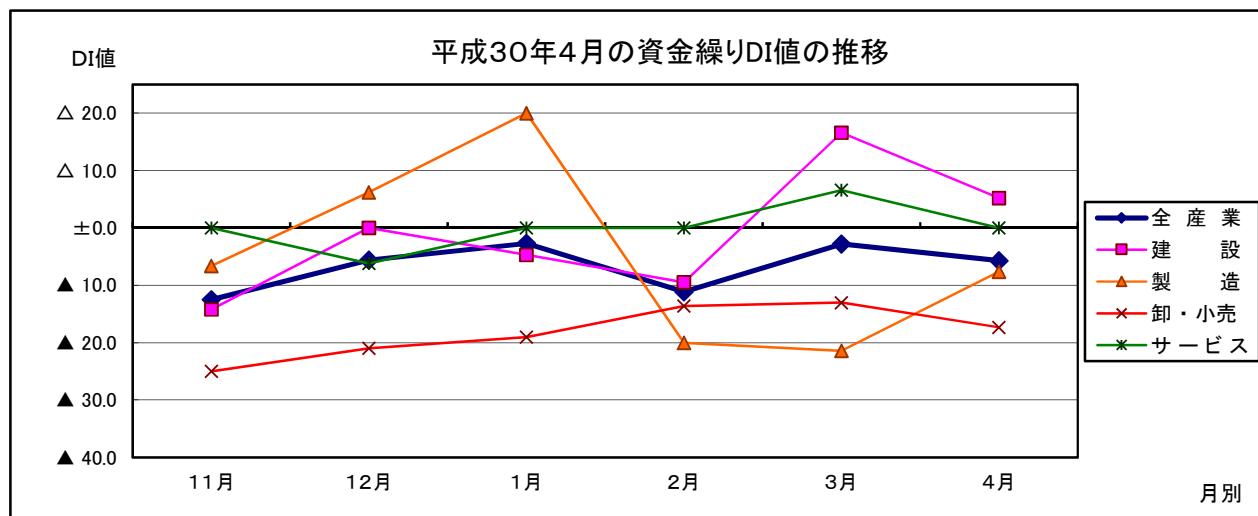
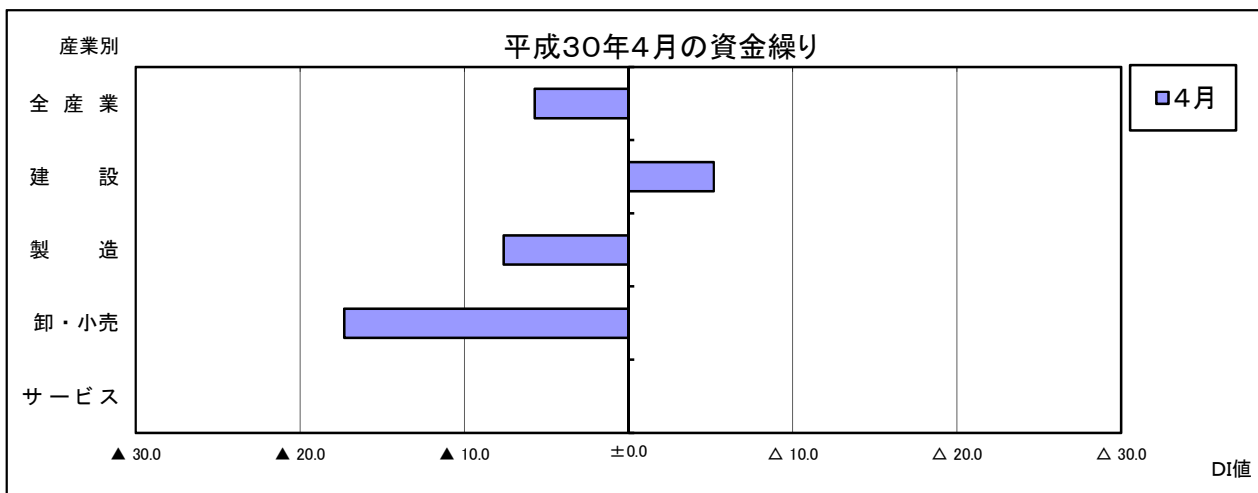
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲7.6(同▲21.4)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△5.2(同△16.6)、サービス業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲17.3(同▲13.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.1(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲17.3(同▲21.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△6.6)、建設業±0.0(同△5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲7.6(同▲7.1)である。

平成30年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲12.5	▲5.6	▲2.7	▲11.1	▲2.8	▲5.7	▲7.1(▲5.7)
建設	▲14.2	±0.0	▲4.7	▲9.5	△16.6	△5.2	±0.0(△5.5)
製造	▲6.6	△6.2	△20.0	▲20.0	▲21.4	▲7.6	▲7.6(▲7.1)
卸・小売	▲25.0	▲21.0	▲19.0	▲13.6	▲13.0	▲17.3	▲17.3(▲21.7)
サービス	±0.0	▲6.2	±0.0	±0.0	△6.6	±0.0	±0.0(△6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.0	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 28.5	▲ 35.7	▲ 28.5	△ 15.7	△ 11.4
建設	△ 5.2	▲ 5.2	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 21.0	△ 5.2	±0.0
製造	±0.0	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 15.3	▲ 46.1	▲ 7.6	△ 38.4	△ 30.7
卸・小売	▲ 39.1	▲ 39.1	▲ 39.1	▲ 47.8	▲ 34.7	▲ 39.1	±0.0	▲ 4.3
サービス	△ 6.6	▲ 6.6	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 46.6	▲ 40.0	△ 33.3	△ 33.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.8	▲ 20.0	▲ 5.7	▲ 7.1
建設	△ 5.2	▲ 5.2	△ 5.2	±0.0
製造	△ 7.6	▲ 23.0	▲ 7.6	▲ 7.6
卸・小売	▲ 34.7	▲ 34.7	▲ 17.3	▲ 17.3
サービス	▲ 20.0	▲ 13.3	±0.0	±0.0

【平成30年4月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	理由はわかりませんが、昨年より問い合わせ・工事が増えております。	前年比増	一般土木建築工事業
	売上・収益共に大きな変動は無いが長期先行の見通しは不明。	不変	電気工事業
	原材料の単価はほぼ上げ止まりとなっているが、副資材の単価や運送代の値上がりが続いている。また、材料納入の運送業者の手配も早目、納入時刻指定もできず材料搬入に支障が出ている。その結果施工に関わる諸経費等が値上げとなり利益に影響が出て来ている。	経費増加 資材搬入支障	その他の職別工事業
	4月は畳縁(ヘリ)小物やバックの販売が好調。あけぼの山売店への納品額が増加の影響。さくら・チューリップ・菜の花などこの時期は観光のお客様が多く販売額も増えるそうです。	畳縁商品好調	内装工事業
	この質問は答える対象者によってかなりの誤差が生じると思います。例えば工務店の場合、元受けて経営している会社と下請けで経営している会社では全く状況が違っています。元受けては人手不足は深刻で下請けは好状況となります。業況でも元受けは悪化でも下請けでは方向性で好転もありです。売上高にしても元受けは上下しますが下請けは不変もありです。	元受けと下請けの違い	一般土木建築工事業
製造業	単純に売上が足りない。例年よりGW企画が少なかったように感じる	売上不足 イベント減少	印刷業
	FA部品の品薄状態は改善されず、材料価格の高騰も続いており調達としては厳しい状態が続いている。お客様からの保全部品の見積もり依頼が多く設備投資に対しては積極性が伺われる。	仕入品薄 仕入高騰 設備投資好調	その他の機械・同部品製造業
	前期からすると売上高は少々上昇したが、仕入単価も上昇して利益幅が減少している。売上も消費税の圧で伸び悩んでいる。	売上上昇 仕入上昇 利益減少 消費税影響	印刷業
卸小売	春物セールスは不調。客単価が下がり。客数減が当分続きそう。やはり郊外店舗では顧客の高齢化による客数減がかなり効いている。	春物不調 客数減少 顧客高齢	婦人・子供服小売業
	浅野書店は2018.5/20(日)が最終営業日となります。	閉店	書籍・文房具小売業
	店舗老朽化に伴う設備入れ替え費用増大。採用を進めるが応募者が著しく少ない。	設備増加 人材不足	その他の各種商品小売業
	入学関係の売上が前年より伸びた。	売上上昇	菓子・パン小売業
サービス業	◎人手不足は、大学生アルバイト給与上昇させてもダメです。労働者派遣会社より補充してます◎材料・食材の値上がり◎当店は今後消費税を内税から外税に変更する予定です	人手不足 消費税影響	酒場・ビヤホール
	都心においてはインバウンド関連業種が企業の収益を高め、国策波乗り企業の躍進が目立つ。一方、中国企業の無人決済(スマホ等)の件費用圧縮企業の売上増。収益を伸ばす改革商品(無人化自動車のピッチの速さ)など政府と大手企業はAI・IOTなどに全精力を傾け、労働力の進化・生産性の向上に邁進している。オリンピックに向けた需要のホテル・民泊等、柏市も疾風の手を打つことが考えられます。中小企業は激変の社会組織改革にあった社針を社員一丸で対応しないとオリンピック後から厳しさが。仕事量からの収益比率の低い4月景気だったかも。	インバウンド好調 無人化商品 オリンピック需要	投資顧問
	運輸業界においては、今後も深刻なドライバー不足・人件費上昇・燃料費上昇・車両購入・修繕費の上昇で厳しい時が継続する。また労働者の適正な時間管理も必要であり難しくなっている。	人手不足 経費増加 労働時間管理	一般貨物自動車運送業
	不動産の相続、空家の査定及び売却依頼は多くなっています。買いたいとの問い合わせは減少しています。また、購入者も買いにに対して慎重になっており、契約まで検討時期が長くなっています。相場より割安感のある物件は早期売却になっています。	不動産売却増加 不動産購入慎重	不動産管理業
	個人消費は悪くないと思う。ただ、買いたいモノ・浪費したいコトがそこに無いだけ。先ばかり見ないで、今頭を使う時です。	個人消費良好	不動産賃貸業
不変状況が続いています。設備投資も中々厳しいと言うより怖い思いです。	設備投資厳しい	ソフトウェア業	

平成30年4月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.8に対し、「CCI-LOBO」が▲11.5で柏の方がマイナス幅が1.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲5.8で柏の方がマイナス幅が4.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.2に対し、「CCI-LOBO」が▲11.9で柏の方がマイナス幅が12.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業であり、卸小売業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲35.7に対し、「CCI-LOBO」が▲42.4で柏の方がマイナス幅が6.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△15.7に対し、「CCI-LOBO」が△26.0で柏の方がプラス幅が10.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.7に対し、「CCI-LOBO」が▲7.5で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業である。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：平成30年4月12日～18日

調査対象：全国の420商工会議所が3941企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、2カ月連続改善。先行きは慎重な見方残り、幅広い圏内の動き

4月の全産業合計の業況DIは、▲11.5と、前月から+4.3ポイントの改善。電子部品や産業用機械関連を中心に製造業が全体を牽引したほか、インバウンドを含む春の観光需要を取り込んだ宿泊業・飲食業やレジャー関連業を中心とするサービス業の業況が改善した。深刻な人手不足や原材料費・燃料費の上昇、食料品・日用品に対する消費者の低価格志向を指摘する声は依然として多いものの、中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲14.2（今月比▲2.7ポイント）と悪化を見込むものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。個人消費の持ち直しやゴールデンウィークに伴う観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費・燃料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、米国の保護主義的な関税措置の影響など世界経済・貿易に対する先行き不透明感を懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「工場や倉庫の建設など、製造業からの発注が多く、売上は改善。今後も案件増を期待できるため、今年度は建設機械・車両等の設備投資を検討している」（一般工事業）、「技術者の確保に難航しており、受注を制限せざるを得ない。人手不足による外注費の増加や、建設資材価

格の高止まりが足かせとなり、収益の確保も難しい」（舗装工事業）

【製造業】「世界的な半導体業界の活況から、同製造装置の引き合いが多い。増産を行いたいのが、人材確保に苦慮しており、今以上の売上増は難しい」（産業用機械等製造業）、「鉄鋼やアルミなど原材料の高値が続き、採算の確保に苦戦しているほか、わが国にも米国による保護主義的な関税措置が適用されたため、今後業績の悪化が懸念される」（金属製品製造業）

【卸売業】「消費者の低価格志向から、卸先である小売業の発注量が乏しく、売上悪化となった。人件費や運送費の上昇により、収益も圧迫されている」（雑貨・日用品卸売業）、「製造業からの発注が多く、売上は堅調。さらなる販売先の拡大を目的に、今年度は、営業担当者の採用人数を増やす予定」（産業用機械卸売業）

【小売業】「物産展などの各種催しが好調に推移したほか、

前年に比べ温かい日が続き、婦人服など春物衣料の売れ行きも伸びている」（百貨店）、「パート・アルバイトの採用難が続いているため、時給を引上げざるを得ないほか、食料品の仕入価格や電気代の上昇も相まって、採算悪化となった」（スーパーマーケット）

【サービス業】「インバウンド需要の増加により、業況は堅調。さらなる需要取り込みを目的に、WiFi環境の整備や館内表示の外国語対応など、新規設備投資を検討している」（宿泊業）、「歓送迎会需要などにより、売上は堅調に推移しているものの、大手メーカーによる業務用酒類の一部値上げにより、採算は悪化した」（飲食業）

【卸売業】「消費者の低価格志向から、卸先である小売業の発注量が乏しく、売上悪化となった。人件費や運送費の上昇により、収益も圧迫されている」（雑貨・日用品卸売業）、「製造業からの発注が多く、売上は堅調。さらなる販売先の拡大を目的に、今年度は、営業担当者の採用人数を増やす予定」（産業用機械卸売業）

【小売業】「物産展などの各種催しが好調に推移したほか、

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲14.9	▲10.0	▲4.2	▲24.3	▲31.7	▲10.9
12月	▲13.3	▲7.4	▲6.7	▲17.4	▲25.8	▲11.5
1月	▲14.4	▲13.6	▲5.1	▲12.2	▲25.2	▲16.1
2月	▲17.1	▲11.4	▲10.1	▲20.8	▲27.3	▲17.9
3月	▲15.8	▲13.5	▲6.1	▲18.8	▲26.9	▲16.3
4月	▲11.5	▲13.1	0.5	▲18.3	▲25.7	▲7.6
見通し	▲14.2	▲18.5	▲8.6	▲16.7	▲23.5	▲8.5

柏の景気情報

(4月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年4月26日～5月11日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲23.6	▲19.0	▲6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
3月	▲11.4	▲11.1	±0.0	▲26.0	±0.0
4月	▲12.8	△5.2	△7.6	▲34.7	▲20.0
見通し	▲20.0	▲5.2	▲23.0	▲34.7	▲13.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは再び悪化。先行きも懸念材料が多く悪化の見通し。

4月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲11.4)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△7.6(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.2(同▲11.1)である。マイ

ナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同±0.0)、卸小売業▲34.7(同▲26.0)である。

【建設業】からは、「景縁(ヘリ)小物・バックの販売が好調。あけぼの山売店への納品額が増加。さら

ら・チューリップ・菜の花などのこの時期は、観光客も多く販売額が増加する」

(内装工事業)、「この景気情報は、答える対象者によつてかなりの誤差が生じる。例えば工務店の場合、元請けで経営している会社と下請けで経営している会社では全く状況が違つており、元請けでは人手不足は深刻で下請けは好状況。業況でも元請けは悪化でも下請けでは方向性で好転もあり。売上高にしても元請けは上下するが下請けは不変

もあり」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「単純に売上不足。例年より△企画が少なかった」(印刷業)、「お客様からの保全部品の見積もり依頼が多く、設備投資に対しては積極性が伺われる」(機械・同部品製造業)、「売上が消費税の圧で伸び悩んでいる」

(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「春物セールの不調。客単価も上がらず客数減が当分続きそう。やはり郊外店舗では顧客の高齢化による客数減がかなり効いている」(婦人・子供服小売業)、「浅野書店は2018年5月20日(日)が最終営業日」(書籍・文房具小売業)、「店舗老朽化に伴う設備入れ替え費用増大」(各種商品小売業)、「入学関係の売上が前年より伸びた」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「今後、消費税を内税から外税に変更する」(酒場・ビヤホール)、「都心においてはインバウンド関連業種が企業の収益を高め、国策波乗り企業の躍進が目立つ。一方、中国企業の無人決済(スマホ等)の人件費用圧縮企業の売上増。収益を伸ばす改革商品(無人化自動車のピッチの速さ)など政府と大手企業はAI・IoTなどに全精力を傾け、労働力の進化・生産性の向上に邁進している。オリンピックに向けた需要のホテル・民泊等、柏市も疾風の手を打つことが考えられる。中小企業は激変の社会組織改革にあった社針を社員一

丸で対応しないとオリンピック後から厳しさが。仕事量からの収益比率の低い4月景気だったかも」(投資顧問)、「不動産相続・空家査定及び売却依頼は多くなっている。買いたいとの問い合わせは減少。また、購入者も買いに對して慎重になっており、契約まで検討時期が長くなっている。相場より割安感のある物件は早期売却になっている」(不動産管理業)、「個人消費は悪くないと思う。ただ、買いたいモノ・浪費したいコトがそこに無いだけ。先ばかり見ないで、今が頭を使う時」(不動産賃貸業)、「不変状況が続いている。設備投資も厳しいと言ふより怖い思い」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

経費増加

各業種より、「原材料単価は、ほぼ上げ止まりとなっているが、副資材単価や運送代の値上がりが続いている。また、材料納入の運送業者の手配も早目、納入時刻指定もできず材料搬入に支障が出ている。その結果、施工に関わる諸経費等が値上げとなり利益に影響が出て来ている」(職別工事業)、「FA部品の品薄状態は改善されず材料価格高騰も続いており、調達は厳しい状態が続いている」(機械・同部品製造業)、「前期からすると売上高は少々上昇したが、仕入単価も上昇したため利益幅は減少」(印刷業)、「材料・食材の値上がり」(酒場・ビヤホール)との声が寄せられた。

四月の景気キーワード

◎人手不足

各業種より、「採用を進めるが応募者が著しく少ない」(各種商品小売業)、「人手不足は大学生アルバイト給与を上げさせてもダメ。労働者派遣会社より補充している」(酒場・ビヤホール)、「運輸業界は深刻なドライバー不足・人件費上昇・燃料費上昇・車両購入・修繕費上昇で厳しい時が継続する。また労働者の適正な時間管理も必要であり難しくなっている」(一般貨物自動車運

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-JOB)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲12.8に対し、「CCI-JOB」が▲11.5で柏の方がマイナス幅が1.3ポイント大きい。業種別では、「建設業」の方が良い業種は、製造業・製造業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪